

病害虫発生予察注意報第1号

病害虫名：モモせん孔細菌病

1 発生予想 モモせん孔細菌病が今後多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

- (1) 4月下旬の巡回調査において、モモせん孔細菌病の春型枝病斑が調査ほ場県下10地点のうち8地点で発生がみられ、多発した昨年より枝病斑の発生率が高い。発病枝率は、昨年より高い地点が7地点、平年より高い地点が6地点あった。
- (2) 巡回調査ほ10地点の発病枝率平均値3.7%は、昨年平均値0.5%、平年値2.1%いずれの値よりも高かった。
- (3) 昨年の台風等の影響により秋季感染が多くなり、越冬伝染源である春型枝病斑が多くなったと考えられる。
- (4) 今後の気象経過にもよるが、伝染源の春型枝病斑が多いため、葉や果実被害が多発すると考えられる。

表1 4月下旬のモモせん孔細菌病の春型枝病斑の発病枝率(%)

年	佐久市 上平尾	小諸市 三岡	豊丘村 河野	松本市 波田三溝	安曇野市 三郷	長野市 川田	長野市 川中島	小布施町 吉島	中野市 新井	山ノ内町 平穩	平均
令和2年	2.0	0	7.3	0	8.0	1.3	3.3	4.7	2.0	8.0	3.7
令和元年	1.3	0	0.7	0	0	1.3	0.7	0	0	1.3	0.5
平年	3.9	0	2.7	0	0.9	5.8	2.6	0.6	1.3	3.2	2.1

*平年値は過去10年間の平均値



図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑

4 防除対策と留意点

- (1) 園地を見回り、春型枝病斑をみつけたら健全な1芽を含めてせん除し、ほ場外へ持ち出すか埋却などの処理を行う。
- (2) 春型枝病斑のせん除や袋掛け等の耕種的防除対策は、風当たりの強い園地など、せん孔細菌病が発生しやすい場所から実施する。
- (3) 発生が多く見込まれる園地では、落花後から10日おきに2回、アグレプト液剤・水和剤の1,000倍液、アグリマイシン-100の1,500倍液のいずれかを散布する(表2)。なお、これらの

- 剤は、耐性菌出現のおそれがあるので注意する。また、早生種では、使用時期に注意する。
- (4) 6月上旬に多発している場合は、7月上旬までチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍液、バリダシン液剤5の500倍液、デランフロアブル600倍液、マイコシールド1,500倍液のいずれかを散布する（表3）。
- (5) 葉の病斑や春型枝病斑がみられた園では、果実への感染防止を図るため、早めに袋掛けを実施する。
- (6) 薬剤を選択する際は、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の登録内容を遵守する。また、同一薬剤の連用は耐性菌出現のリスクがあるので、連用せずにローテーションで使用する。
- (7) 散布予定日に降雨が続くと予想される場合、防除は前倒しで行うなど薬剤の散布間隔をあけないように注意する。
- (8) ネクタリンも、ももに準じて耕種的防除対策を実施する。薬剤防除については、落花後から10日おきに2～3回マイコシールド1,500倍液を散布し、6月中旬以降多発している場合は7月上旬までチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍液、デランフロアブル600倍液のいずれかを散布する（表4）。なお、アグレプト液剤・水和剤、アグリマイシン-100はネクタリンに使用できないので注意する。

表2 モモせん孔細菌病に対する防除薬剤（ネクタリンを除く） JPPネット 2020年4月27日確認

農薬名	FRACコード [*]	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	
アグレプト液剤・水和剤	25	1,000	散布	収穫60日前まで	2回以内	注1)
アグリマイシン-100	41+25	1,500	散布	収穫60日前まで	2回以内	注2)

令和2年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) アグレプト液剤・水和剤はストレプトマイシンを含んでいる。

注2) アグリマイシン-100はオキシテトラサイクリンとストレプトマイシンの混合剤であるので使用回数に注意する。

表3 モモせん孔細菌病に対する防除薬剤（ネクタリンを除く） JPPネット 2020年4月27日確認

農薬名	FRACコード [*]	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル・トレノックスフロアブル)	M3	500	散布	収穫7日前まで	5回以内	注1)
バリダシン液剤5	U18	500	散布	収穫7日前まで	4回以内	
デランフロアブル	M9	600	散布	収穫7日前まで	4回以内	注2)
マイコシールド	41	1,500	散布	収穫21日前まで	5回以内	注3、4)

令和2年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) チオノックフロアブルとトレノックスフロアブルは、チウラムを含んでいるので使用回数に注意する。

注2) デランフロアブルは、販売していない場合がある。また、展着剤のアプローチBI、ニーズを使用すると薬害を生じるので加用しない。

注3) マイコシールドは、薬剤耐性菌出現のおそれがあるのでローテーション散布を行う。

注4) マイコシールドは、オキシテトラサイクリンを含んでいる。アグリマイシン-100も同成分を含んでいるので使用回数等に注意する。

表4 モモせん孔細菌病に対する防除薬剤（ネクタリン） JPPネット 2020年4月27日確認

農薬名	FRACコード [*]	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	
マイコシールド	41	1,500	散布	収穫28日前まで	5回以内	注1)
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル・トレノックスフロアブル)	M3	500	散布	収穫30日前まで	5回以内	注2)
デランフロアブル	M9	600	散布	収穫14日前まで	2回以内	注3)

令和2年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) マイコシールドは、薬剤耐性菌出現のおそれがあるのでローテーション散布を行う。

注2) チオノックフロアブルとトレノックスフロアブルは、チウラムを含んでいるので使用回数に注意する。

注3) デランフロアブルは、販売していない場合がある。また、展着剤のアプローチBI、ニーズを使用すると薬害を生じるので加用しない。

長野県病害虫防除所
 塩川正則（所長） 小林富雄（担当）
 電話：026-248-6471
 FAX：026-248-6473
 Eメール：bojo@pref.nagano.lg.jp
<http://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>